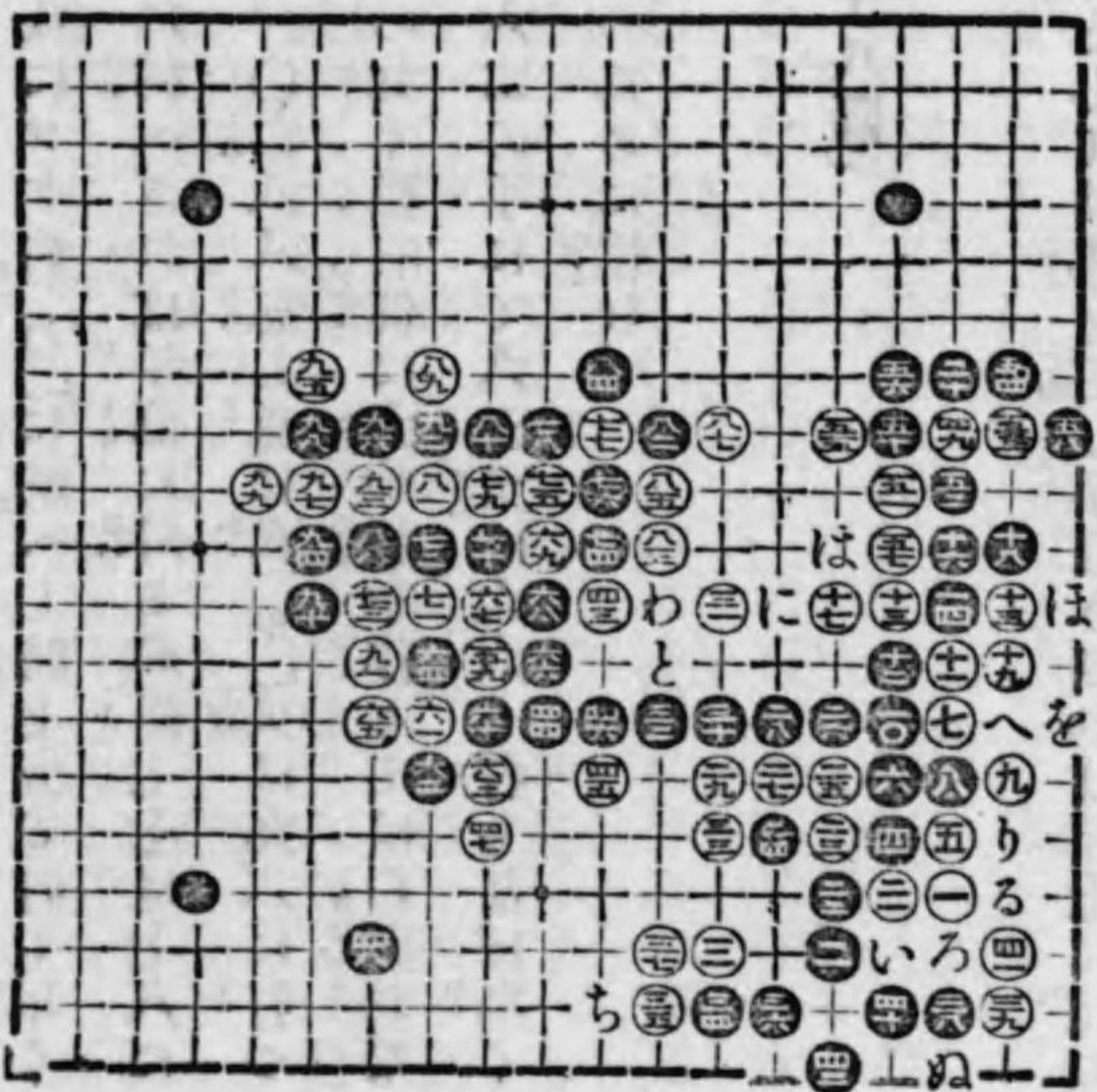


打ち過ぎなり三三に曲るべし、三二と黒を伸ばしたる爲め黒より三四、三六と打たれ
 白三七に續かざればならぬことゝなたりり三二の伸びさへなければ黒三四、三六とツ
 ケヒキたる時三七の手にて三二に縛ね黒三一白」と黒に「白四十黒三七白」と打て
 ば白の方優勢なり○黒三八の時は四
 一に打つ手あり若し白四十に隔だて
 來らば黒「い」に出で白「ろ」黒三八白
 三九黒「り」白「ぬ」黒「る」白三八に粘
 ぎ黒「を」と打ちて振り替り黒の方善
 し白又四十に飛ぶ手を「る」に抑ゆれ
 ば黒三八に尖みて先手なり○白三九
 のツケ誤れり四一にコスメば黒死な
 り○白四九とツケ五一と縛ね二子を
 捨てたる趣向面白し故に黒五十は五

第三十八圖



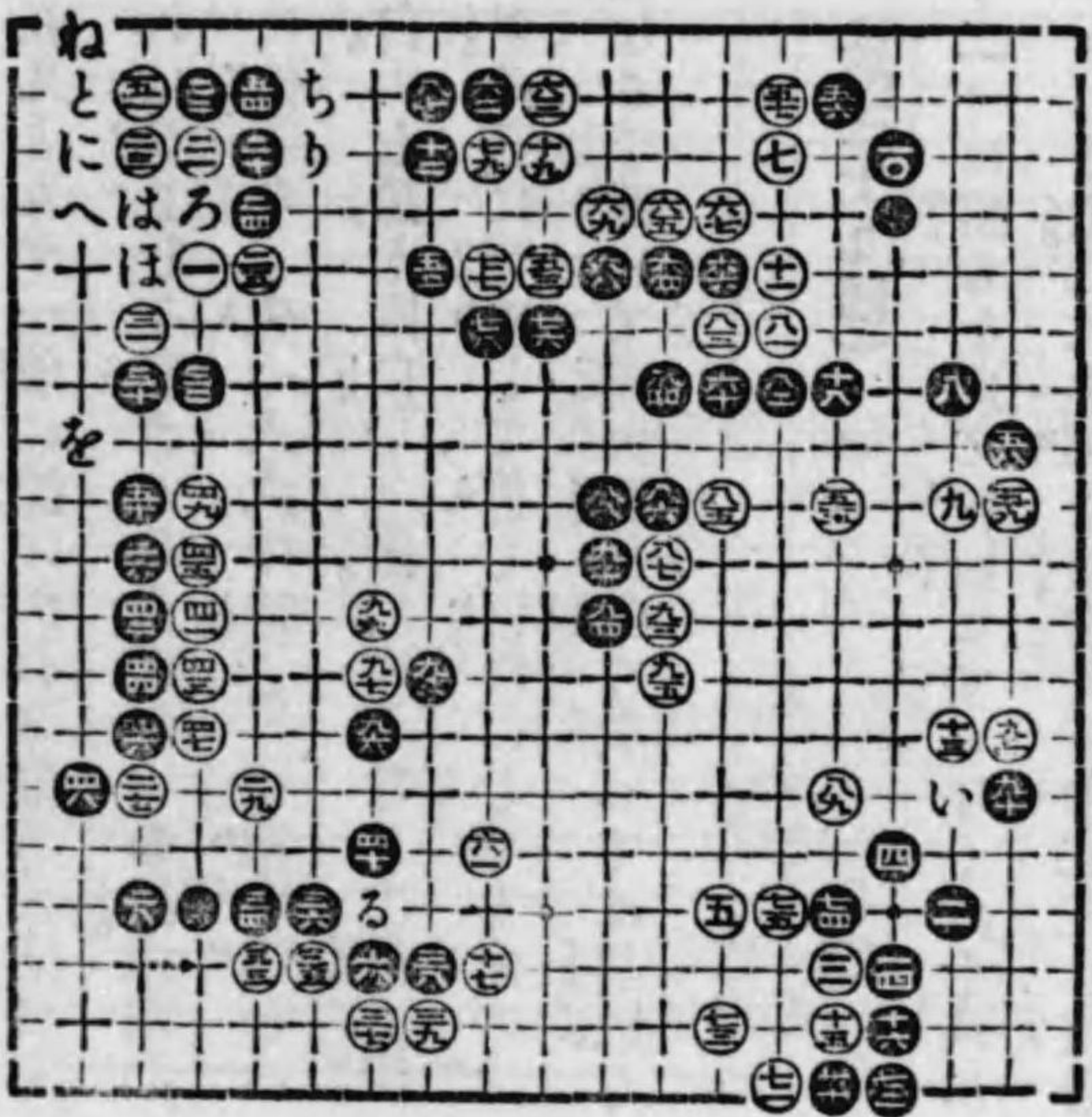
三に受くる方善し五二に至りても亦然り白五九とカケ一氣に黒の大石を屠らんとせし
 は少しく無理なれども三目も置かせし碁なれば又止むを得ざるならんか、●黒六四の
 切り打たぬ方善し●黒六六、六八以下餘りに俗手なり先づ六六の時「わ」に割り込むべ
 し其時八三に抑ゆれば黒六四白六五黒六八白六七黒七四白」と黒六六となりて外出
 す又白八三に抑ゆる手にて六七に行びなば黒八三に突出して善し何れにしても此の大
 石を提られる黒にあらず然し譜の如く俗悪なる手段にて此大石を白に與へては黒敗な
 り○白九十九手迄○

二子 八目勝 (第三十九圖)

●黒十二悪しき手にはあらねど面白からず二二に掛るを以て普通とすさなくば十八に
 飛ぶべし○白十三は今一步進み「い」に打つべし●黒二二の縛ね面白からず二三に夾む
 べし其時白二二に下らば黒「ろ」に縛ね込み白「は」黒二四白「に」黒「ほ」白「へ」黒三一に
 行びとなり良形なり又最初白二二に下らずして「ろ」につゝかば黒二二に盤り白五一に
 切らば黒「と」に抱へて仔細なく又白五一に切らずして五四に切らば黒「ち」と打つてよ

し●黒二四ば五一に出で白二四に縛ねし時「り」に引き白と「黒ぬ「白」」となるを普通
 通の型とす○白二五悪し五一に約ゆべし●黒二六は直ちに五に出づべし白若し「と」
 に約ゆるれば黒「ろ」に出切る手出来白形ち悪しくなりゆくなり●黒三八悪し「る」に續
 くべし○白四一より四九まで餘りに
 平凡なり四一の時四四に詰めるか又
 は四一と打ちても四三の手にて四四
 に約ゆべき筋なり○白四五は四六に
 打つべし●黒五十はを「に」コスム形
 なり○白五一甚だ緩し此の時黒は何
 處も堅固の局面となりて白の地形薄
 弱なれば最早十二、二十等此處の黒
 を攻むるの手段なき形勢なれば五一
 の手にて「ち」にオキ黒五四に續きた

圖九十三第



る時白八十とツケ兎に角攻勢をとらざれば座して敗を待つのみ是れ戦略家のなすべき
 事ならず●黒七一は先づ七四よりするを手順とす●黒七六は八九に打ち方優れり、●
 黒八六は八九の方善し。
 本局は白五一以下ことごとく平凡の打ち方をなし黒に十分打ち廻され終に八子を輸す
 るに至りしは白の不覺といふべし。
 白九十九手迄。

四目黒 中押勝

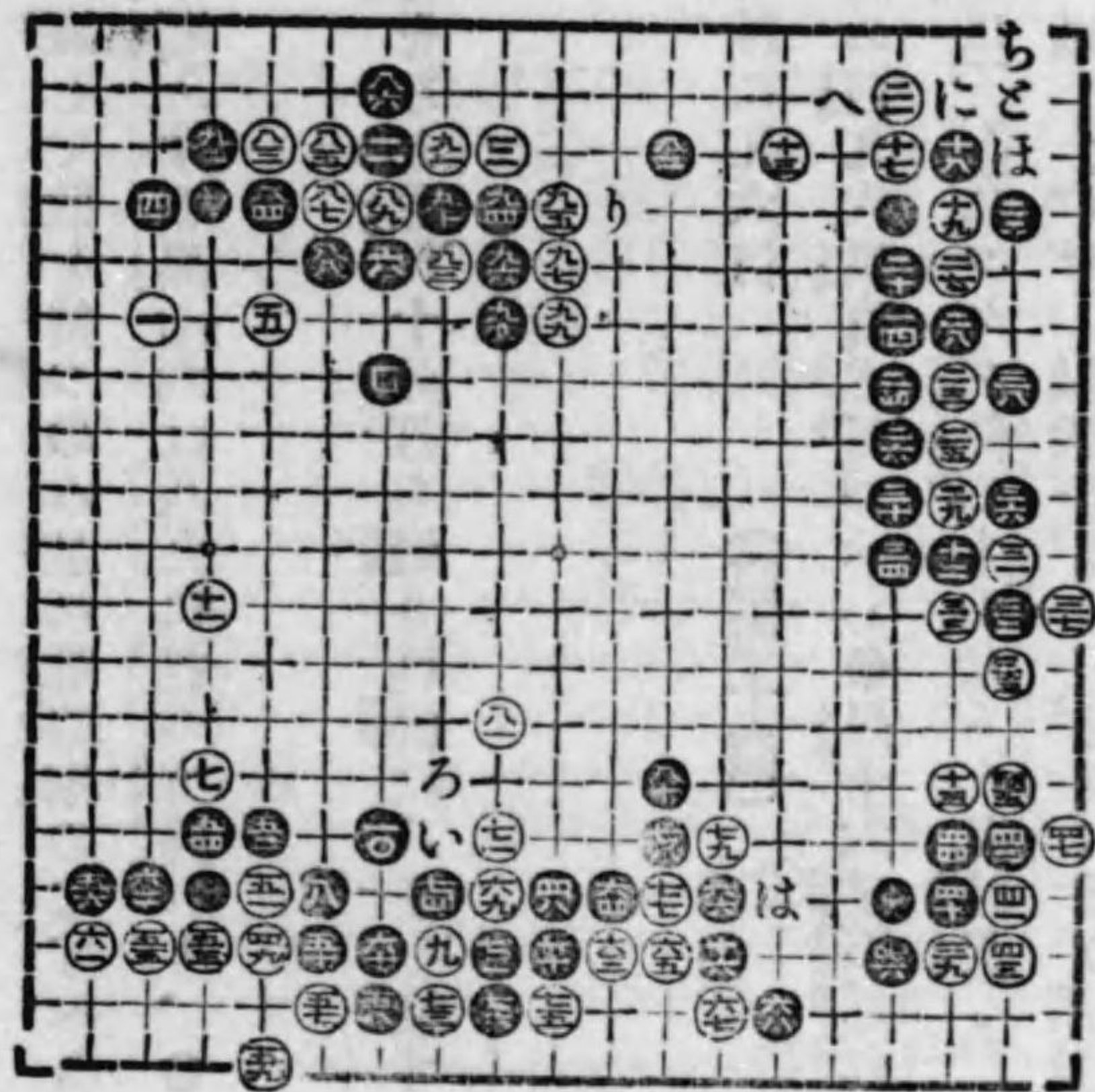
白初段に凡六目

(第四十圖)

●黒十二は好點なれどもこの場合八二に詰め白九六黒百と打つべし●黒十六定石なれ
 ども面白からず烈しく六三にせまるべし白は「い」にツケル位のものならん其時黒「ろ」
 に刎ね白を七一に伸して「は」に守るべし●白十七以下の趣向無理なり先づ六三の好點
 に詰め徐々進行すべし●黒二十のツギ大いに緩し二七に刎ねべし○白二一は「に」に
 縛ね黒「は」白「へ」黒「と」白「ち」と打つを本打筋とす○白二三以下三七まで無謀も甚だ
 し先づ「に」に屈り黒「は」に粘ぎし時六三に詰むるか又は「り」に守るべし●黒二四は二

六に掛けるをよしとす二六も同様に三十に打ちて可なり○白二七は評の下し様もなき悪手なり●黒三十は三四に引くをよしとす○白四五は四六に押すを手順とす黒に四六に打たれ四七と後手にて盤る手順となりては白の形勢大いに悪し●黒四八筋違ひなり七十に打つべし○白四九悪し六三に打ち黒七十に断ち切らば六四に押し戦ふべく黒もし六四に押さば七十と引き盤りて連絡すべし●黒六二悪しこの處最早打つ必要なし右傍の長壁を利用し八二に打ち込むべし○白六三より八一までの手段拙劣なり見よ八一と打ちても悉く下邊に著石を失ひ何の得る處なし●黒八二八四大いによしこれに反して白は悪手甚

第十四圖



だ多く最早評の下し様がない。

白百手迄。

白初段 四子黒 七目勝

(第四十一圖)

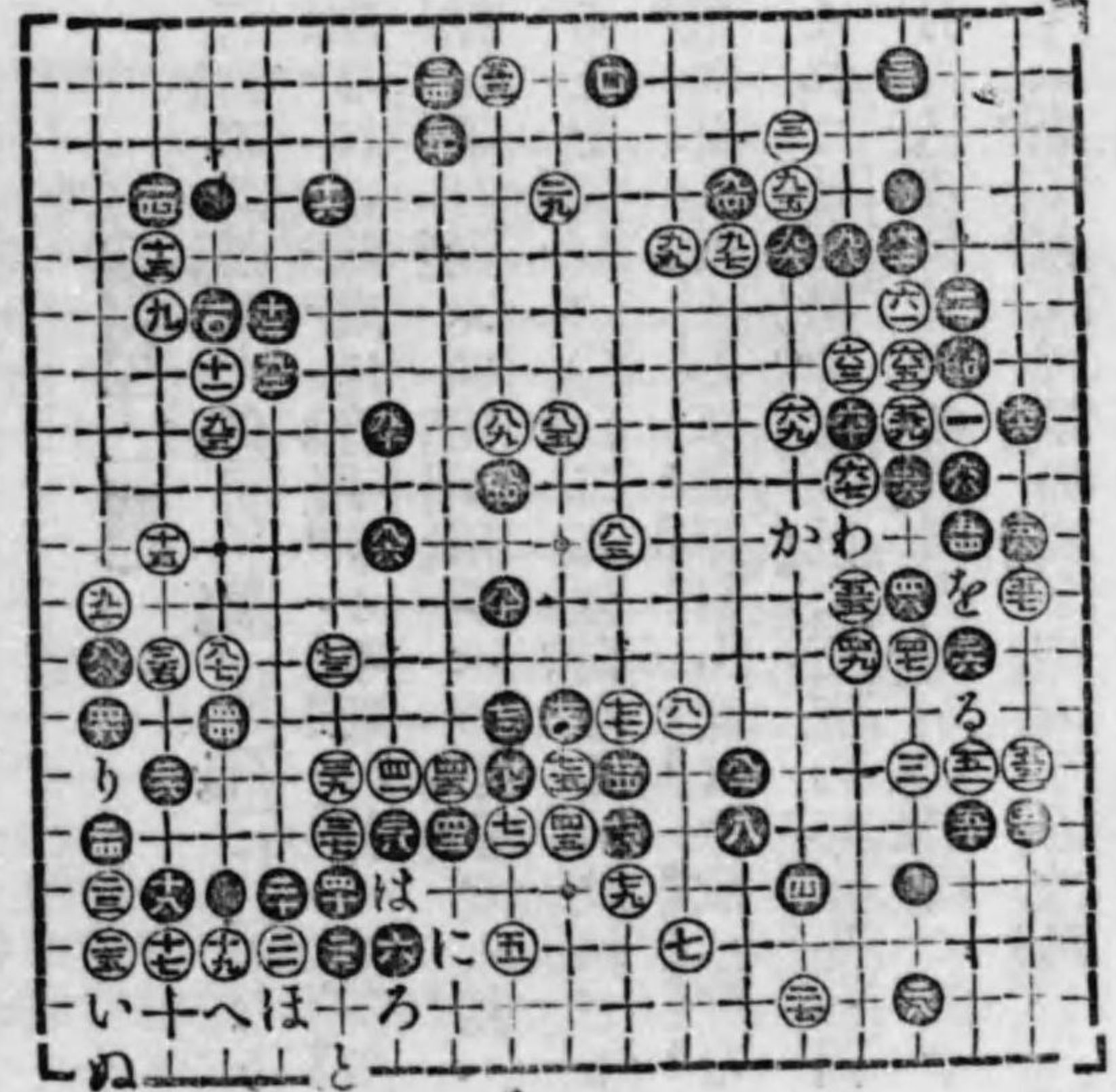
●黒二二は此の場合二五に緯ね白「い」黒二三白二二黒四十四「ろ」黒「は」白「に」となりし時黒三五と詰めて善し三五の處は實に好點なれば此處に着手する手順に打つは多少の損を隅になすも仔細なきなり斯の如く好點に手を運ぶは往々用ゆべき手段なり總べて此の形に限らず此の呼吸にて打たれんことを望む、○白二九趣向なるべけれども面白からず他に手段すべし○白三五は四目置かせし碁として最早打ち處なき故據なく斯く打ちたるならんも黒に三六と打ち込まれては局勢非なり故に三五の手は先づ四八に守り徐々に進行する外なし●黒三六の打ち込み善し、●黒四六餘りに堅固に過ぐ先づ「は」に緯ね白「へ」黒「と」白四六にコスミ（斯く打ちて隅の白を守るなり）黒「り」白「ぬ」の時手を抜き四九に飛ばし黒大に善し●黒五十、五二餘りに狭すぎて面白からず五十の時「る」に伸び白五一に約へし時五五に押すべし○白五三餘りに平凡なり兎に

角「を」に切る外なし●黒五六面白からず「わ」に縛ね白「か」黒六七と伸び打つ方優れり
 ●黒五八は五九に打つべしさなくば「を」に續き而して此の黒白を中央に出動すべし白
 に六九と提られては黒不利なり然し
 ながら此の碁は素より黒優勢の局面
 なるが故些細の過失ありとて勝勢動
 かざるなり。
 黒百手迄。

互先黒中押勝 (第四十二圖)

●黒十三は敵の真似をなすが如き傾
 きありて碁法上よろしからず十五に
 應ずべし○白十四悪し先づ「い」に突
 當り黒二七に同様の手を打ちし時十
 四なり又は「ろ」なりへ歩武を占むべし然るに此着點を誤まりし爲め黒に二七と打たし

圖一十四第



評の如く運ぶべし○白五二亦悪し黒に六七と打たれ下邊を取られては勝敗決せり五二は五三にツケルを手筋とす其時黒若し五二に出づれば白「る」黒六一白六七黒六五白五四となり安全に上部へ出動し得べし又黒五二に出でず「を」に刎ねなば白六五と伸ひいかに變化するも此白石取らるゝ憂ひなし實に五三にツケル手筋は面白き型に記憶すべき價値充分なり。

黒九十九手迄。

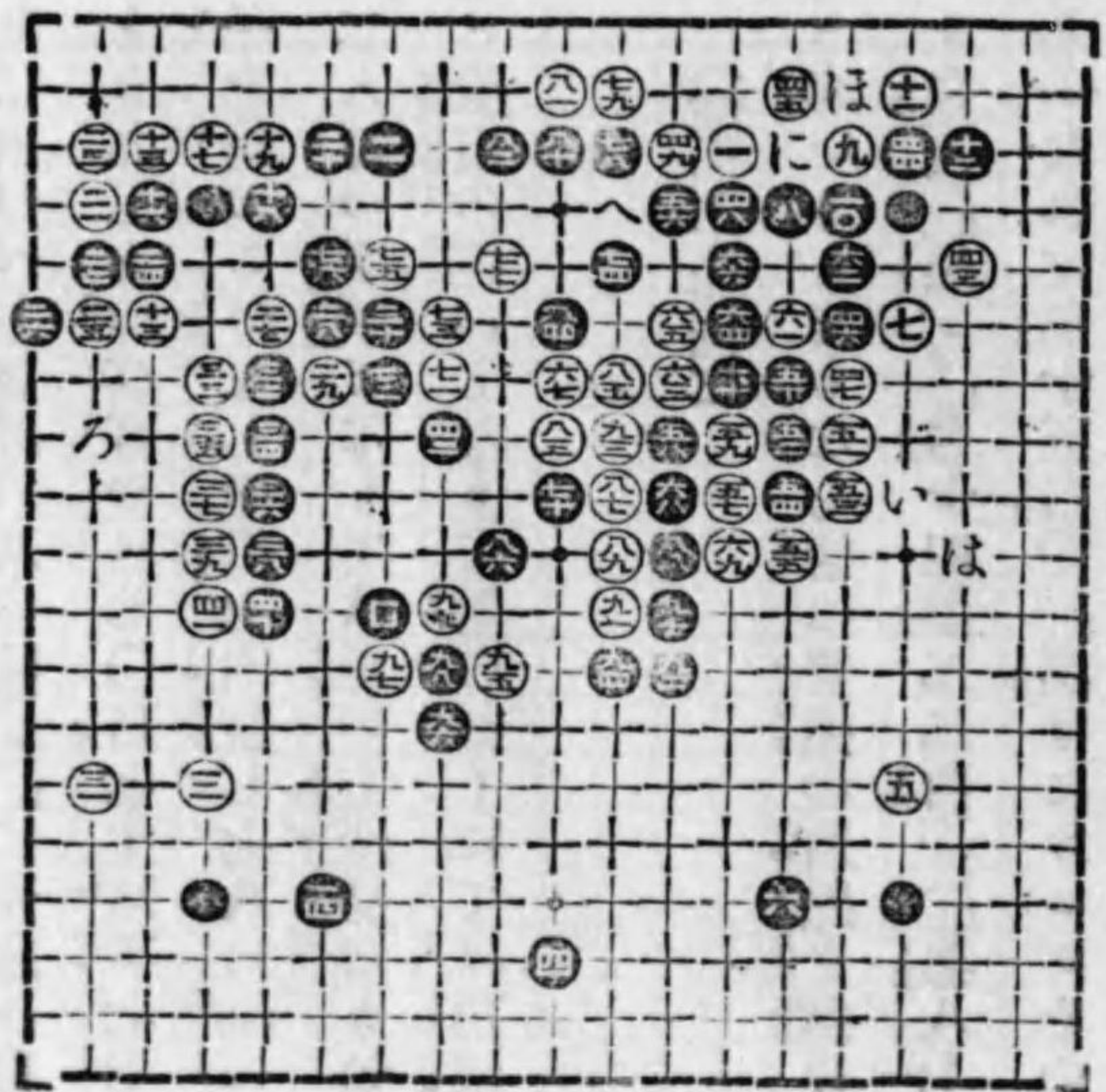
四子

(第四十三圖)

○白九の手悪し四八に押す外なし●黒十二緩し四八に押し四九に伸びし時黒「い」に打つか又は四八に押さずして六一に飛び白右側に着手せし時七八に詰め打つも一策なり○白三一面白からず七二に押し黒七三に伸びし時「ろ」に飛び打つべし黒より三二と切り四十と伸ばるゝ手順となりては白の形勢非なり●黒四二緩し「は」に打つべし○白四三無理なり「は」に守る位のものなり●黒四四打たぬを可とす●黒四六以下五六迄悪し四六の手にて「い」又は「は」に打つべし○白五七悪し六九か又は七八に伸ぶべし●黒五

八緩し六九に切るべし恐らし五八と打ちしは白より六一と切られ六二に粘ぐこと、思料し居る故斯く打ちて五十、五二、五四の三子を救はざるべからざる打方をなすなりこれ黒の見なり何となれば最初五十と刎ねたる手は白六一に切らば黒は六四と刎ね四六の一子を捨つべきなり然して五十の手働きを生ずるなり然るに四六の一子を捨てざる趣向なれば五十と刎ねる手は不可にして六一に伸ぶべきなり果せるかな白より六五と運ばれ黒不利の形勢とはなれり之を要するに黒四六の一子を捨つる手筋にて六九に切り打たば白の五七無理となるなり故に黒の五八緩しとはいふなり○白六七重し九三に刎ね黒六八白

圖三十四第



六九黒八七白七十と二段劬ね軽く鎗石の趣向に出づべし●黒六八の時「に」に差込み白を「ほ」に粘がせ而して六九に切り白六八のとき九三と伸び打つべし○白七十以下七七まで無理なり七一の時「へ」に劬ね中央の三子を捨つる外なし●黒七四緩し七八に劬ねべし然しながら白七七と打ち黒七八以下八二と打つ手順となりては黒の方優勢なり●黒八六は八七に打ちてもよろし然し白八七と脱出の運びとなりて譜の如くにては白潰れなり。黒百手迄。

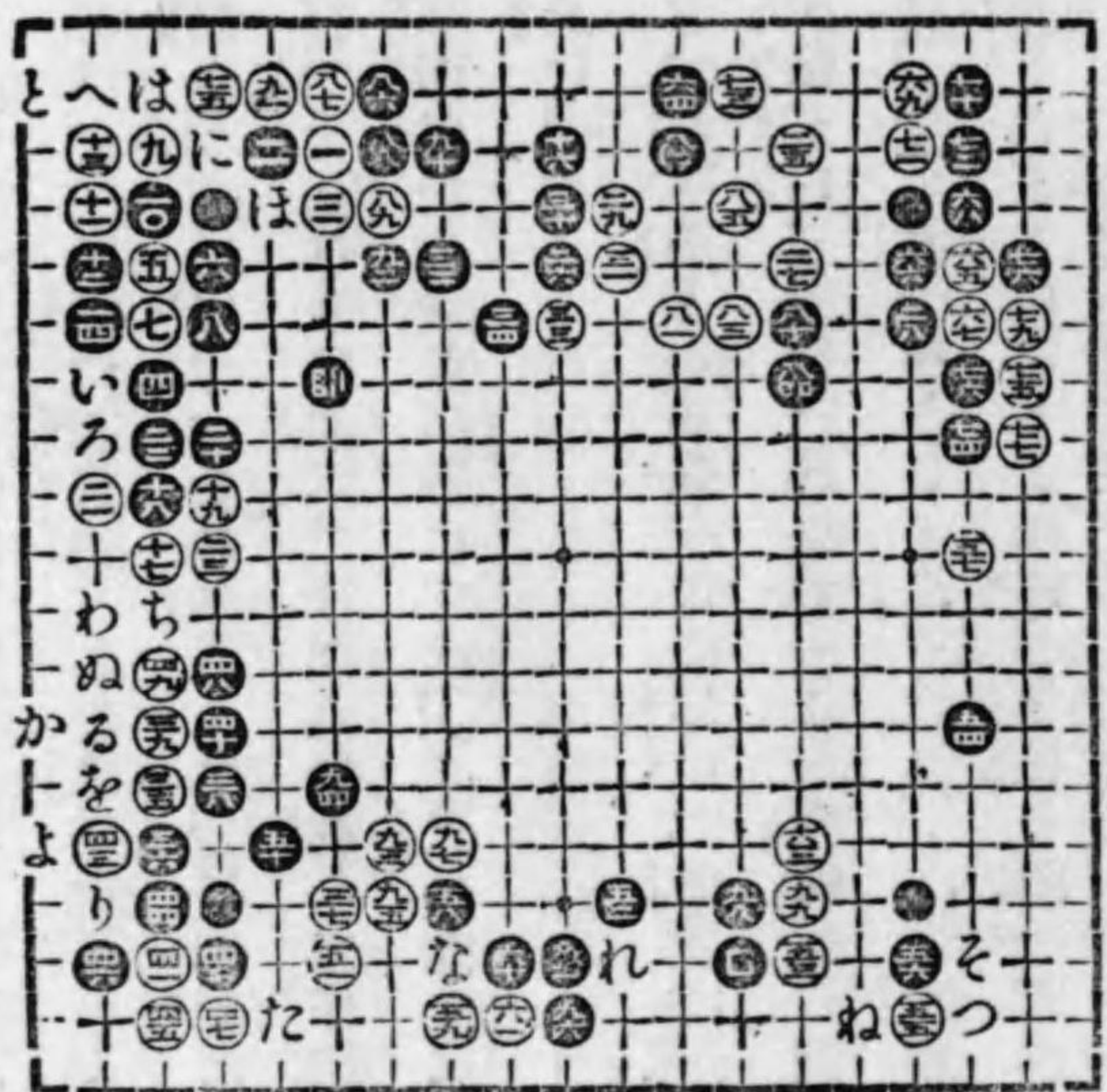
四子 黒二目勝

(第四十四圖)

○白五の打ち込みあまりに早急にして悪しき事いふまでもなし他に普通の着點を選むべし●黒十二悪手にはあらねど十五にコスミ白「い」黒「ろ」百十四黒二二白「は」黒八七と打つか又は十五のコスミを「い」に下り白九一なれば黒十五白「に」黒はにオヨグその時白十三に粘がば黒「ほ」に粘ぎ白八七黒「へ」白「と」黒十二に截り黒大いによし依つて白十三に粘ぐことならず「ほ」に提る外なしその時黒十三に截りて可なり○白十五鈍も極まれり九一に打たば連絡するにあらずや●黒十六も悪し九一に出で白隅の石に活を

打ちたる時十六と打つべし○白十七は九一に盤らざれば碁形をなさずされば黒とても同断●黒十八以下二二まで悪し十八は三九に大斜走すべし○白二三重し三五にカ、アべしこの時黒もし二三に切らば白は「ち」に引き十九の一子は捨て、仔細なし●黒二四徒手なり三九に大斜走すべし○白二九、三一悪し先づ三五にカ、リ 徐に趣向すべし●黒三二調子はづれなり三三にのぶべし○白三七法外三八にのびる外なし○白四一無理なり四九に引く外なし○白四五、四七無謀も甚だし四五の手にて四六に出で黒「り」に切りし時四九に引く外なし●黒四八緩漫なり四九に劬ね白「ぬ」に應せし時黒「る」白「を」黒「わ」白「か」

圖四十四第



黒「ち」白「よ」に打ち活きる外なしその時黒「な」に約へなばそれにて白潰碁なり●黒五十緩し「た」に打たば黒甚だ優勢なり●黒五二は「れ」に打つ方普通なり●黒五六悪しこゝに打つなれば「そ」にコスムべし○白五七悪し「つ」に出づべし●黒五八は「ね」に縛ね出すべしこの處を打つなれば一路低くなに打つべきなり●黒六二は九六に約へて仔細なし○白六三は「つ」に出づべし○白六五以下面白からずこの碁にては「つ」又は九一に打たざれば碁形にならず依つて評をこゝに止む。

附言 總べて碁には打つべき手と打つべからざる手筋とあり先づこの局にて申さば最
初白十五は九一に打つべきもの黒十六も同斷又白三七を三八に打つこと白四五、四
七は打つべからざる手筋なること黒十五は「た」に打つべきこと黒五六は「そ」に應ず
べきこと白五七は「つ」に出づべきこと等尤もなるものなりこれ等の手筋を辨へざれ
ば碁の無則にはづるゝがゆる深く研究ありたし當局御双方未だ極めて初心と見ゆれ
ば特に一言す。
黒百手迄。

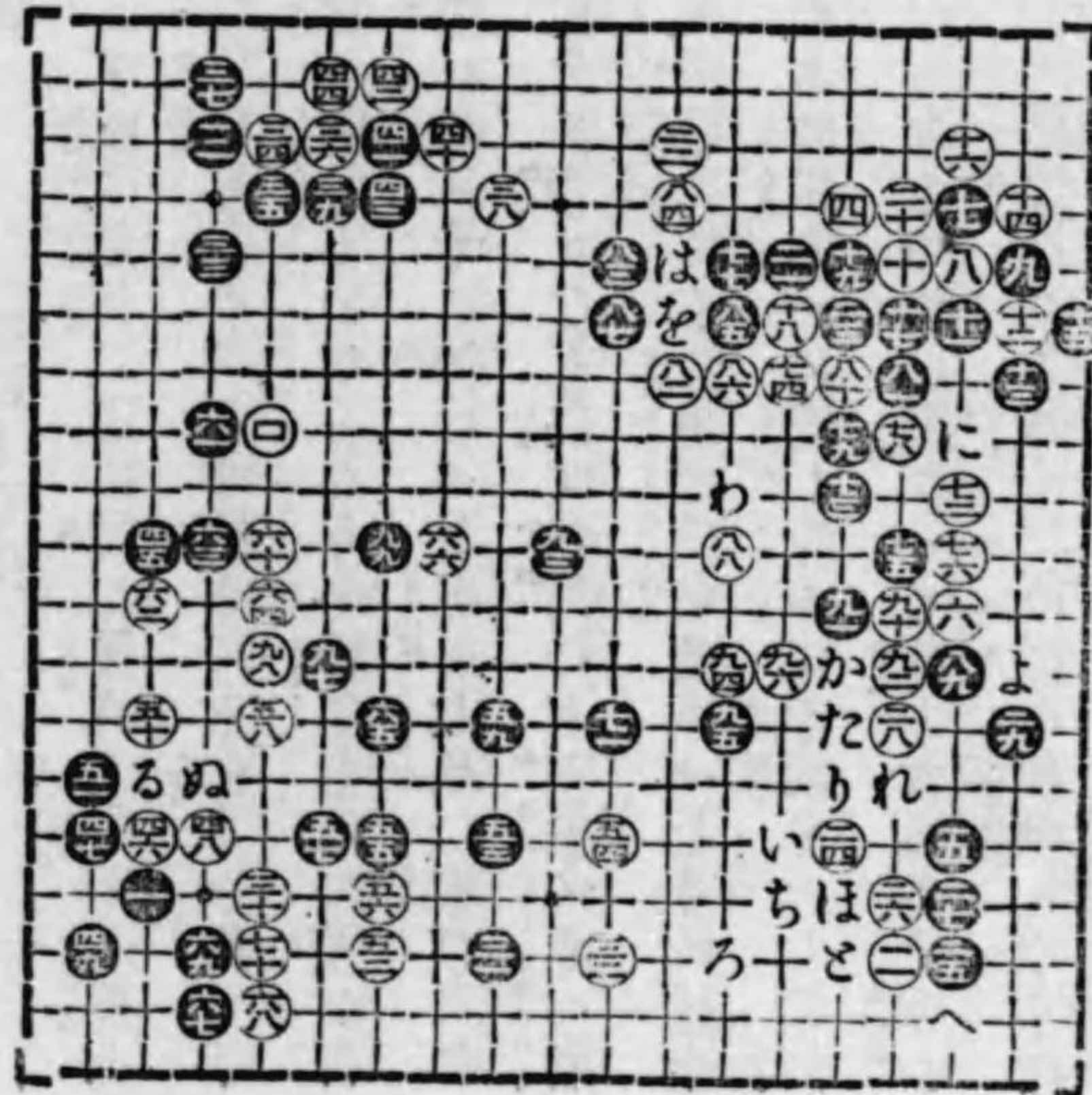
白初段に凡井目互先 白勝

(第四十五圖)

○白十八法外の手なり二一にコスムを定石とす或は最初二三に縛ね黒八十白十八黒七
四白八六黒八五と切るも定石なり●黒十九時期早しかくアテす置きても白より打つ手
なし假りに白より打つとするも二三に突き當る位のものならんその時黒七八に飛び打
たば前評にいひし如く最初白十八を二三に縛ね黒八十に縛ねべき處を七八に飛びたれ
ば白は手をぬきて差支ひなきに十八とナラビたる型となり白は如何にも不急の處へ着
手せし姿とはなるなり故に十九の處は黒より何時にても先着の機會あるべしされば十
九の手にて「い」に二間飛び白「ろ」にヒラキたる時黒九一に冠し徐々に手段すべし○白
二二大悪斯く打ちては十八の手益々悪手となるなりされば黒二一と來りたるこそ幸ひ
二三に切り黒七七にのぶれば八五に押し黒「は」に「び」たる時「に」に詰め攻勢を取らば
十八の悪手却つて良手に化するなり黒に二三とツガしめては白の不利も甚だし○白二
四の斜走は手筋に外づる「ほ」にコスムを普通とす○白二六は二四の手をして益々筋違
ひとなさしむ善惡を問はず「へ」に縛ね黒二六白「と」黒「は」白「ち」黒「い」白「り」と打た

ざれば本手筋にならず●黒二九緩し三一に打つべし●黒三三の縮り好點なれども此場
 合下邊正に多事とならんとするの狀勢なれば五三に飛ぶべし○白三四以下四四まで悪
 し先づ「ぬ」に懸け而して後五三に三一の黒を壓迫する趣向に出づべし●黒四五大場な
 れどもやはり五三に飛ぶ方此の場合
 適切なり●黒四九は普通「る」に綽ね
 る所なれども此場合斯く打つも面白
 〇〇白五十緩し五一に約ゆべし黒に
 五九と手たれては白の形勢非なり●
 黒七七打過ぎなり七八にコスミ連絡
 して打てば充分なり●黒八三悪し、
 「お」にコスミツケルを形とす●黒八
 七の並び方針を誤まるこの一團の黒
 は「に」にあてれば眼形のある石故防

圖五十四第

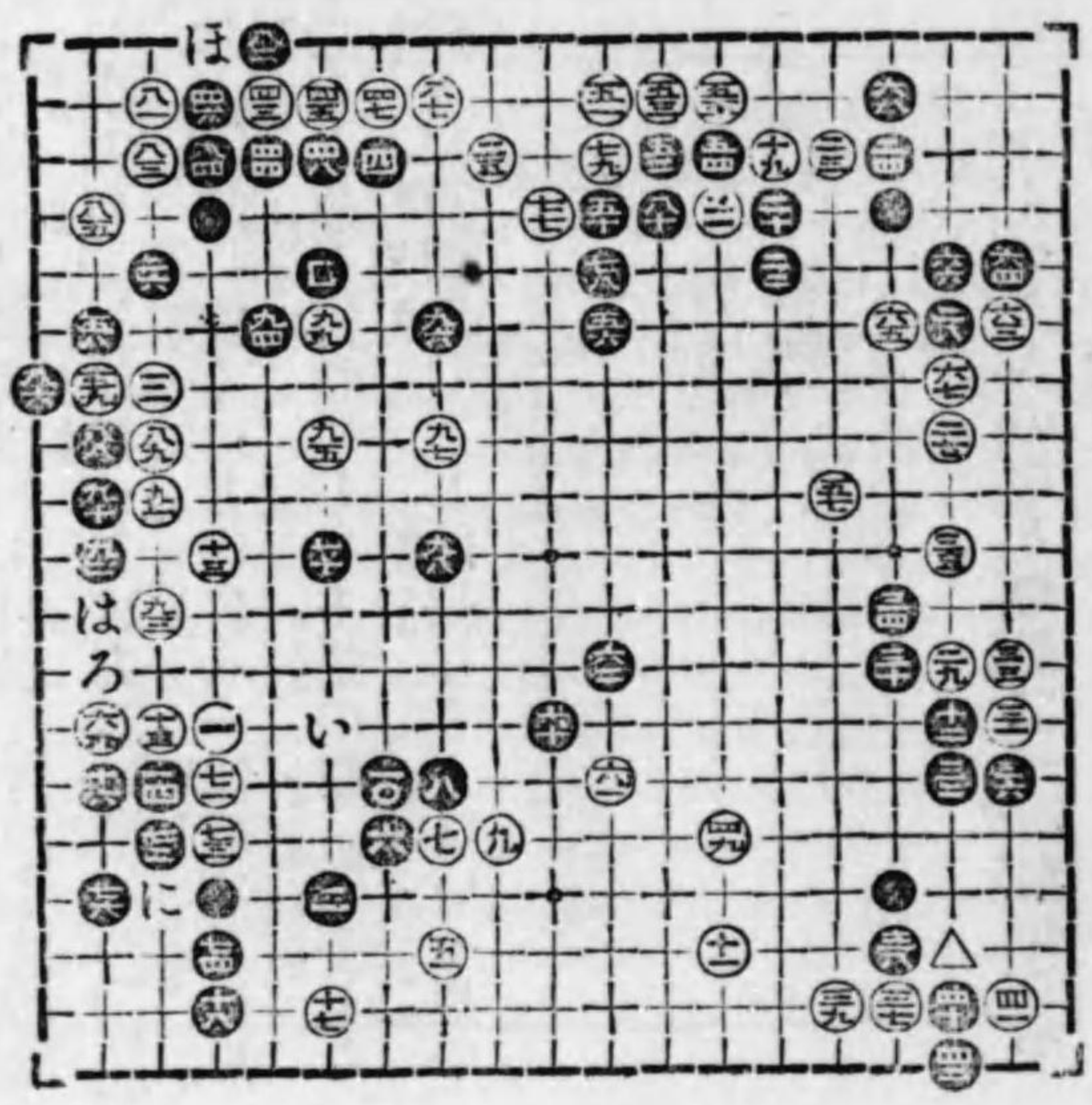


四〇〇

ぐに及ばず中央の三子は甚だ強弱なるが故に「わ」に飛び打つべし●黒八九又悪し「か」
 に斜走し白九二に添へば九十に當て白「よ」ハカケツギ黒「た」に押し白「れ」に引きし時
 九五に飛びて連續をはかるべしこの三子を白に與へたる爲黒敗局となせしは惜しむべ
 し。白百手迄。

四子十二目勝 (第四十六圖)
 ●黒十のツギ悪手にはあらねど手筋
 として「い」に打ちたきものなり●黒
 十二は平凡の應手なり六、八、十等
 の壁を利用し十三又は九三に打込む
 方烈しくして面白し○白四一は思ひ
 違ひなるべし譜の如く四二に下られ
 て損にあらずや二九より三五までの
 手順を運びあらざれば格別圖の如く

圖六十四第



四〇一

にては△印に切る味もなし○白四九は五十に守るべし●黒五十は七九に打ち込む方烈しくして白窮せん●黒六二面白からず六九に曲り白「ろ」に約へなば九三に覗くか「は」にツクルかして白地を消すべし●黒七四損なり「に」に續くべし○白八一無理なり●黒八二の緯ねは「は」に下りにて白に何たる手段なし然し何れにしても黒の勝勢全しこれ白が四目を置かせし碁としては打ち振り餘りに眞面目なりし結果なりとはいへ黒の出来決して悪しからず。

黒百手迄。

互先 黒中押勝

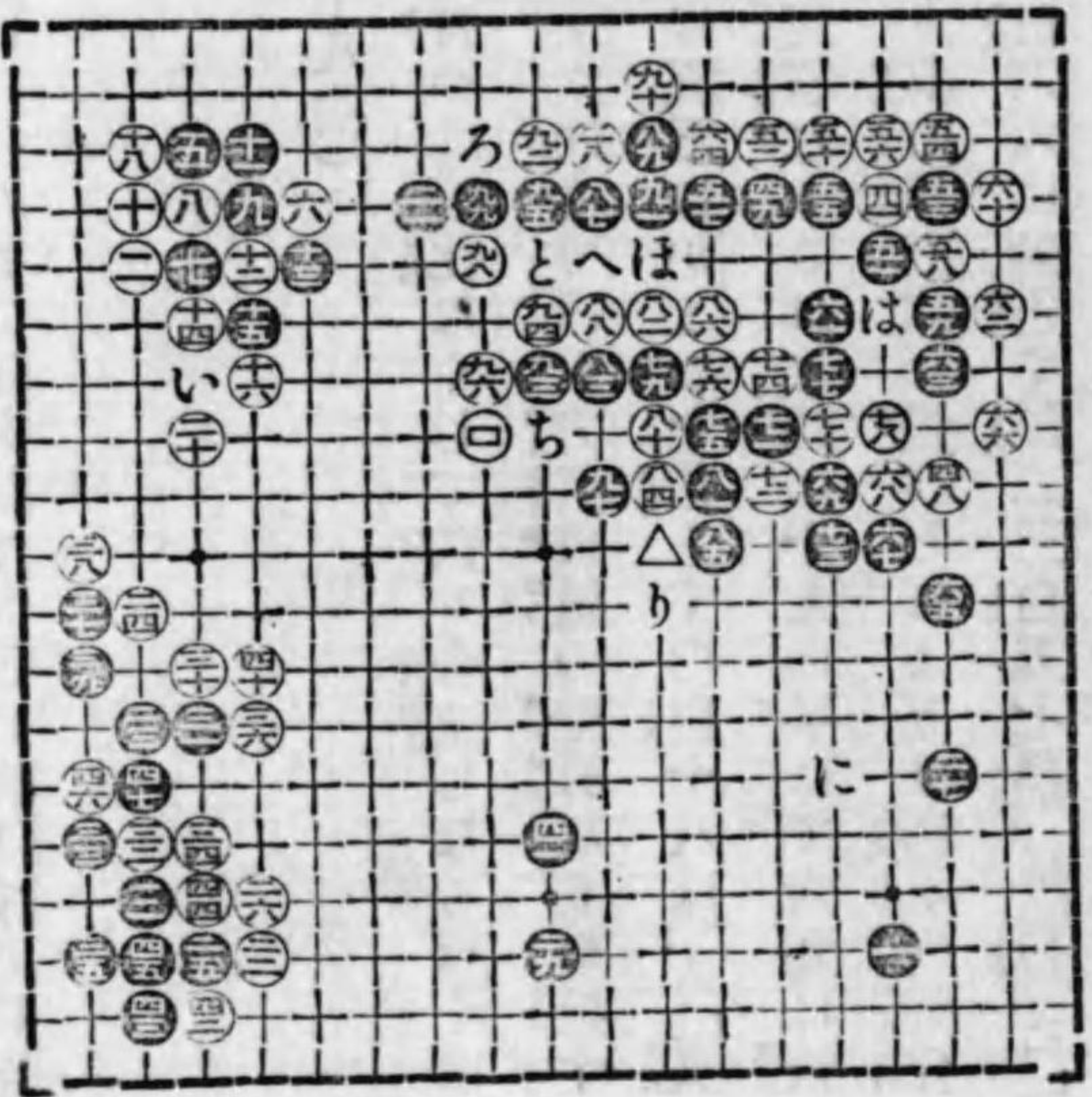
(第四十七圖)

●七の處トル ●十二の處緯ク

○白二十△印に切る手残りて危手なり「い」につらくべきものなり●黒二一面白からず「ろ」に打つを定石とす●黒二五打たぬ方よし○白二八は好點なれども二九の方優れり○白三十より四十迄面白からずもし三二と打ち三六と約へる趣向なれば三十と打たず三二へツケ黒三三白三四黒三五と圖の如く運びて後三二にツクル方優れり先づ差當り

白此處に着手の必要なし四八又は四九に守るべし○白五十悪し「は」に飛ぶべし黒五一趣向なるべけれど惡し五二に約へて仔細なし○白六六悪し六九に飛ぶほかなし○白七二より八六まで時機はやし八二の時「に」の邊に打ち下邊の黒の模様を消す手段に出づべし●黒八七手筋として面白からず八八に曲り白「ほ」黒九一白「へ」黒八七白」と黒九五白九八黒九二と打ち其時白「ち」に掛け三子を取らば黒△印と曲りをけば下隅の大疆域は略地形をなすべし尤も白「ち」の掛けを打たずして△印に押せば黒「り」と緯てよし●黒九三と伸び九七と打ち手筋にては重くして面白からず△白百は敗着なり何事措きても△印に出でざ

圖七十四第



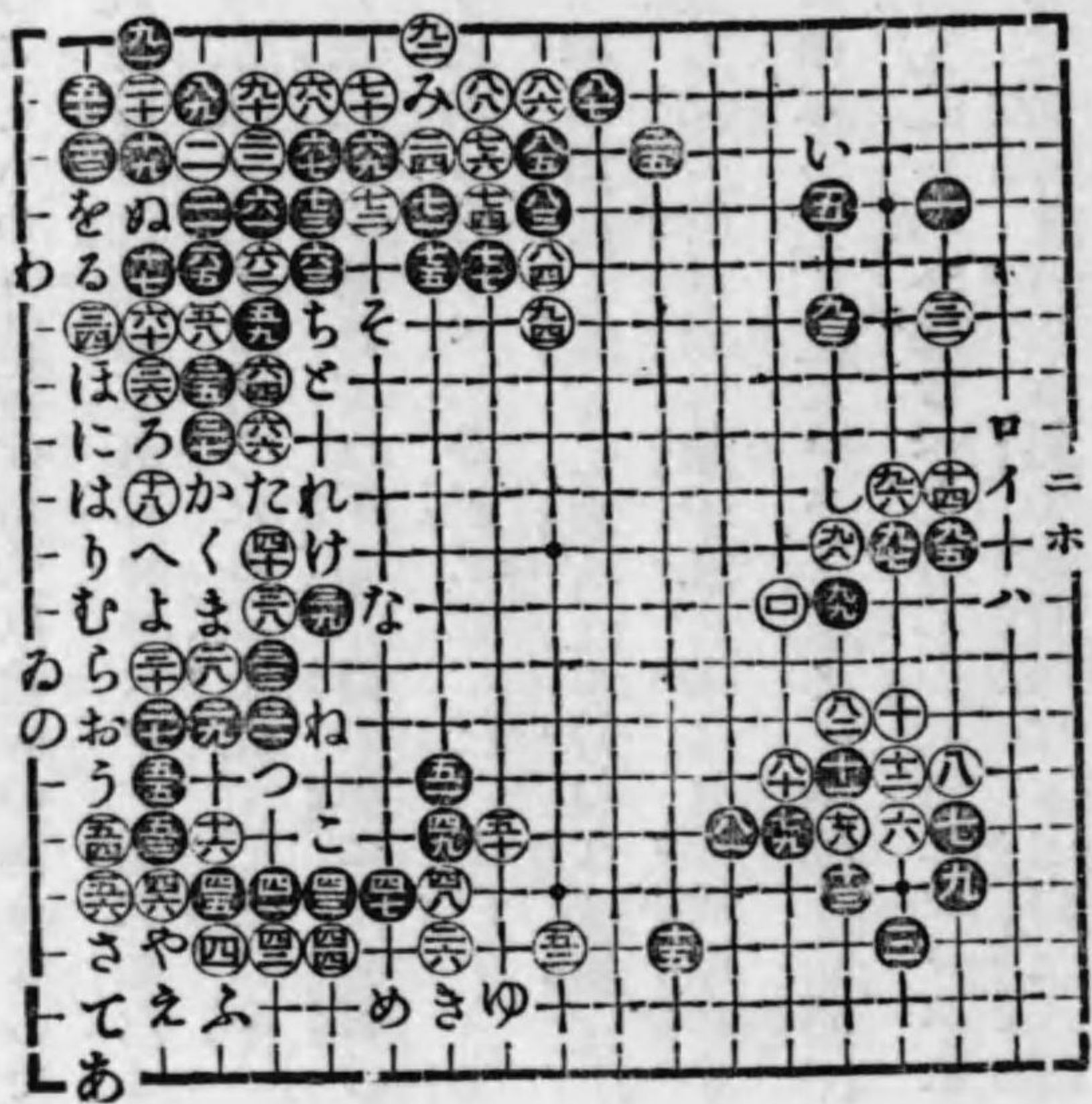
れば勝負を争ひがたし百一の手にて黒に△印に打たれ二子を捨て、遂に抛了するに至りしは白の爲め惜しむべき局面なり。
黒百手迄。

白七目勝 (第四十八圖)

○白四は定石なれども既に二とあり又四と打つは變化なくして釣り合悪しなるべくは「い」にかゝるか或は四二に目外しすべし以下十四までは双方共普通の配石なり●黒十五は好點なれども時機未だ早し先づ十七又は五三にかゝるを善とす○白十八は「ろ」又は三六と挟むもあり●黒十九以下二三まで定石なりされど此の十九の手にて六九に挟み白六一黒八五黒五八とかけると又定石なり其時黒三六に飛びそれよりは種々の變化あり今一二を記さんに黒三六に飛びたる時白六六に斜走す黒二三白五七黒「は」白「に」黒「ろ」白「は」黒六十白「へ」黒十九白二十黒六四白「と」黒五九白「ち」黒六二黒六三黒二一白二二黒三七となり是定石なれども自古風なるが故現今は好みて打たず白又「に」を「り」に打てば黒「に」白「へ」黒十九白二十黒「ぬ」と打ちて黒の方宜し因て白六六の斜走

を三七にコスミ黒十九白二十黒五七白「ぬ」黒二三白六五黒「る」白又六五を「を」黒「る」白「わ」黒六五白二一黒六二白九十黒六三となる是れも定石なり又白三七のコスミを二五に約へ黒「ろ」白三七黒「は」白六十黒三四白「り」黒「へ」白「か」黒「に」白「よ」黒二三又白三五の約へを「ぬ」にコスミック黒三五白「た」黒五九白六五、黒六六白「れ」黒「そ」となる何れも定石なり其の得失は他の形勢に應じて研究すべし●黒二七好點なり但し其の前に六一に押し白七三黒六三白七二と打たすも或は黒六一を七三にかけ白六七と受けたる時二七と打つも宜し○白二八、三十悪し斯く二八とかける手は十八の一子「へ」にありたる場合二

圖八十四第



八とかけ黒二九白三一黒「つ」白「わ」と打つこともあり其變化得失は自戦の場合ならで
 は評を下す能はず讀者之を諒せよ因て二八の時は此場合五五にコスミック黒二九白は
 「よ」と詰め打つべし○白三二好點なれども二八、三十と打ちたる以上先づ三三に今一
 歩押し黒「ね」の時白「な」と斜走すべし黒に三三と曲られては所謂二目の鼻にて白石の
 ダメツマリとなり悪し○白三四穩かならず三六に打つべし●黒三五、三六面白からず
 六一に押し白七三黒六三白七二の時「う」に緯ね白「む」黒「う」白「の」に緯ねなば黒「の」
 に劫に受け白「お」に劫を提らば黒六七劫立し此の劫は白に劫の立、場なき基故黒必ず
 劫には勝てるなり故白容易に「の」に緯ねる事ならず「く」にコスミー「よ」の切りに防ぐ
 位のもの其時黒四六と覗き白四五なれば黒「や」に約へ込むべし若し白四五にツカズに
 「や」に約へなば黒四四に打ち込むべし何れに變化するとも黒の方優勢なり○白三八穩
 かならず「ら」に下り形を整ふべし●黒三九形に暗し「へ」にツケべし白打つ手に窮せ
 ん若し此の時白「く」に約ゆれば黒「か」に切り白「は」に下る外なし其時黒「ら」白「に」黒
 四十白「ま」黒三九白「よ」黒「の」白「り」黒「け」とツギ白石形凝り黒下部堅くなりて宜し

白「く」を「か」に出づれば黒「ら」と緯ぬべし又白「く」を「り」に緯ねなば黒「ろ」白「に」黒
 「か」白「は」黒「ま」白「よ」黒「く」となる何れにしても黒の方宜し●黒四一の時も「へ」に
 ツケるを手筋とす●黒四一以下五迄面白からず若し此處に打つならば四二にツケべ
 し其時白四一なれば黒四四白「ふ」黒四三白「こ」黒四七と打ち白若し「ふ」を四七にコス
 メば黒「ふ」白「や」黒「え」白「て」黒「あ」白「さ」黒「き」白「ゆ」黒「め」と生きて黒の方宜し
 ○白五八無謀も甚だし六一に曲るべし黒五九緩漫甚だし六十に切るべし○白六二よ
 り六六まで尙悪し六二の時七三に緯ね黒六三白七二と伸び置けば後に白「る」に曲る
 意味ありて白の方宜し●黒六九遠慮に過ぐ九十に切り白八九なれば黒七十に緯ね出し
 白石を兩断して宜し○白七二打たずして直ちに七六にのぶべし斯く打てば黒より「み」
 に切られ白七六黒九十と隅の三子を提る手を生ずればなりされば黒はその如く打つ方
 優れり○白八四無理なり八九に續くべし○白八六悪し八八に下るべし●黒八九、九一
 の切り取り甚だ小なり八九の時九二に打ち白九十黒九一と緯ね白の石劫なり斯くの如
 き劫は黒の方薬にして實に勝敗に關すそは白八六の緯ねツギ悪しき結果なり●黒九五

無謀なり此の處打つなれば九七より打つ外なし此し局面にては九五の時の「し」に冠し
 八四、九四の二子を狙ふ手段に出づべし○白九六は九七に緯ぬる方安全なり圖の如く
 にては黒より「イ」に緯ね白「ロ」黒「ハ」となり白は勢ひ「ニ」に緯ねざればならず其時黒
 に「ホ」と劫に受けられ如何なる結果を生じるやも計られず真に此の劫争を以て勝敗の
 分岐點となす因て白九六は九七に打ちおくを確かなりとはいふなり。
 白百手迄。

製 複 許 不

昭和十年四月十日
 昭和十年四月十六日
 印刷發行



412

<p>園碁 手ほごきから初段まで 定價金一圓五十錢</p>		<p>著者 東京園碁研究會</p>	<p>發行者 東京市神田區神保町一ノ五十 合資會社 泰文館代表者 伊藤 巳之助</p>	<p>印刷者 東京市神田區猿樂町一ノ七 溝口 榮</p>	<p>發兌所 東京市神田區神保町一ノ五〇 合資會社 泰文館 電話神田四四九六番 無替東京六七六〇三番</p>
--	--	-------------------	---	---	---

行 印 所 刷 印 口 溝

弊店發行の書籍は地方いづれの書店でも特約販賣致して居ますが萬一品切の場合は直接本社
 へ御申越願ますれば急送致します。
 尙圖書目錄及振替用紙御入用の方は御申越次第急送致します。

終

